

## 学生海外研修報告書

鹿兒島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・修士1年

氏名: 志岐 龍哉

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先(国・地域) 滞在地	アメリカ合衆国・カリフォルニア州 サンディエゴ・サンノゼ
研修期間	平成29年7月3日～平成29年9月22日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>私がこの研修を通じて得た大きな成果は2つあります。一つは、英語を使うことに慣れたこと。もう一つは、日本とアメリカの働き方の違いを知ることができたことです。アメリカに住んでいる間は、当然ながら四六時中英語を話さなければなりません。お店で料理を注文するときも、道を尋ねるときも全て英語です。日々の生活の中で、英語を使うことに段々と慣れていきました。また、語学学校には世界各地から様々な国の人が英語を学ぶために集まっていました。彼らと英語でコミュニケーションを取る中で、それぞれの国の文化や考え方、価値観の違いなどを学ぶことができました。まだまだネイティブスピーカーのように流暢ではありませんが、コミュニケーションを取るのには問題ない程度の英語力は得られたのではないかと思います。企業研修では、シリコンバレー発のソフトウェア企業で研修をさせていただき、アメリカの企業の働き方や経営者の考え方などを学ぶことができました。</p> <p>また、アメリカではUberというスマートフォンアプリによる配車サービスが盛んに利用されていました。このサービスでは一般人がドライバーとして登録されており、ユーザーがアプリに行き先を入力すると最寄りのドライバーが迎えに来て行き先まで連れて行ってくれるというものです。タクシーに比べて料金も安く、支払いはアプリに登録したクレジットカードで行われ、ユーザーとドライバーが相互に評価し、レビューを書くシステムがあるためトラブルが発生しにくいため安心して利用することができました。また、ドライバーにとっても、車さえあれば空いた時間にドライバーとして働く事が出来るため良い副業になるのではないかと思います。このサービスが日本の地方など、公共交通機関がまだ発展していない地域に導入できれば、生活の利便性の向上や、観光事業に大いに貢献できるのではないかと思います。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>この研修に参加したことで、海外に住むことや、海外で働くことが、自分の将来の進路の選択肢の一つとして考えることができるようになりました。また、英語を使ってたくさんの国の人とコミュニケーションをとったことで、英語の重要性を再確認することができました。これからも英語の学習を継続し、積極的に英語を使う機会を増やしていきたいと思います。</p>	

## (記入にあたっての注意)

この報告書は今後の奨学金支給にあたっての参考となるものですので、詳細(複数頁可)に記載をお願いします。

冊子として後に残るものなので記述の仕方にも注意して下さい。パソコンでの作成を原則とします。また、参加した研修がタイプA(地域貢献型)及びタイプBの場合は、地域貢献や地域活性化に資するグローバルな視点や能力を得たかどうか、成果を必ず記載してください。本報告書は、鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に掲載されます。

# 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・修士1年

氏名: 徳田 耕平

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先(国・地域) 滞在地	アメリカ合衆国・カリフォルニア州 サンディエゴ・サンノゼ
研修期間	平成29年7月3日～平成29年9月22日
〔研修を通じて得た成果〕	
<p>私の本研修における目標は英語の能力の向上と就業体験の充実の二つでありました。この目標を踏まえて得た成果を挙げていきます。まず、一つ目の目標についてですが、語学学校での六週間を終えて、英語の能力が以前より上がったという実感は大いにあります。特にスピーキングの能力は最も伸びたと感じています。理由としては、日本の英語の授業ではまずできない外国の方に囲まれての英会話と英語でしか意思疎通をすることができないという状況が自分を成長させたからです。また、以前より度胸がついたと考えます。研修前は自分の英語に自信が持てないことから、どこか胸を張って英語を話せていない自分がいました。しかし、クラスで自分の英語が相手に通じることが分かってからは、話すことを躊躇わなくなりました。次に就業体験についてですが、私は自動車やオーディオ、その他の家電などに多く用いられる「抵抗器」を製造、販売する会社に勤めていました。しかしアメリカにあるものはマーケティングのオフィスであり、工場はもちろん、エンジニアもいませんでした。研修前は自分の希望とは違うのではないかと、不安な気持ちであったが、研修を終えた今、私は非常に満足しています。研修先では、礼儀や仕事に対する姿勢など社会人としての在り方を丁寧に教えていただきました。また、シリコンバレーにおける日本人の現状や情勢と今後の未来の技術など世に出回っていないことなども教えていただきました。また研修先の方は盛和塾の会員であり、同鹿児島大学の稲盛和夫さんと同じ思想を持った方で、同感することも多かったです。そして本研修体験で最も印象深かったことは皆さんが自分たちが造っている製品に自信と誇りを持って、販売していることでした。当たり前のことですが、製品が人命に関わることもあるので、品質や精度には力を入れていて、そこに大きな自信を持って販売に励んでいるとのことでした。地域貢献や地域活性化については私の研修先では省資源、省エネルギーの推進や地球温暖化の抑制などの環境保全活動推進はもちろんのこと、環境マネジメントシステムを取り入れているとのことでした。内容としては「一つ一つの抵抗器の品質と制度を向上することで、その抵抗器を搭載した製品を長い年月使用することができる。よって抵抗器またはそれを使用する製品を無駄に製造することがない」ということでした。私はこの考えを聞いたときに素晴らしい考えだと感じると同時に、それでは利益が少なくなるのではとも感じました。しかし、それが環境保全活動へつながり、消費者の長期信頼性にもつながるということが分かりました。私はこのように地域貢に資するグローバルな視点を得ました。</p>	
〔研修後の抱負〕	
<p>今後はまず、TOEICを受験して数字として結果を比較したいと思います。また、本研修で非常に素晴らしい体験をさせていただいたので、それらを多くの人と共有し広げていこうと感じました。また来年も本研修に参加する後輩達がいるので彼らにも、より良い研修を送ってもらうために私たちが知っていることは教えていこうと思います。</p>	

(記入にあたっての注意)

この報告書は今後の奨学金支給にあたっての参考となるものですので、詳細(複数頁可)に記載をお願いします。冊子として後に残るものなので記述の仕方にも注意して下さい。パソコンでの作成を原則とします。また、参加した研修がタイプA(地域貢献型)及びタイプBの場合は、地域貢献や地域活性化に資するグローバルな視点や能力を得たかどうか、成果を必ず記載してください。本報告書は、鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に掲載されます。

# 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・修士1年

氏名: 片山 諒太郎

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先(国・地域) 滞在地	アメリカ合衆国・カリフォルニア州 サンディエゴ
研修期間	平成29年7月3日～平成29年9月22日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回自分は海外研修にて6週間の語学学校と6週間のインターンシップに行ってきました。この3か月は新しいことだらけで非常に充実し充実した時間を過ごせました。まずは語学学校で得られたものは、語学学校に行っているのが当たり前ではありますが英語能力の向上です。自分は海外研修に行く前は英語はほとんどしゃべることができませんでした。こんな状態で海外に行ってちゃんと生活ができるのかとても不安でした。しかし語学学校に行き毎日積極的に英語を話すことによって日常英会話ならある程度話すことができるようになりました。今回の研修で英語をしゃべれるようになりましたがさらにしゃべれるようになりたいのでこれからも英語の勉強に励んでいきます。</p> <p>次にアメリカの文化に触れることができたという点です。実際にアメリカに行くことによってアメリカがどんな国なのかを直で知ることができました。一番驚いたのは日本との接客の態度の違いです。日本はお客様のほうが立場的に上ですが、アメリカでは従業員と客が対等な関係にあります。このようなことは日本ではありえないことなので知ることができてよかったです。いろいろな文化の違いに触れることによって視野をひろめることができました。このことを活かして新しい発見ができればいいなと思います。次に語学学校に行ったことで海外の友達をたくさん作ることができました。日本人だけでなく海外の友達を作ることができて本当に良かったと感じます。これからもしばしば連絡をとって友好関係を築いていきたいです。</p> <p>次にインターンシップで得たものは自分の意見をしっかり言うということです。日本では上司の言うことは絶対だという風潮がありますが、海外では上司が間違っていることを言っていたらしっかりと自分の意見をみんな言っていました。自分もその環境に影響されてしっかりと自分の意見を以前より言えるようになったと思います。また、インターンシップ中に海外の盛和塾に行って講演を聞く機会があったのですがそこで印象に残った言葉があります。「自分が変われば周りが変わったように見えてくる」という言葉です。周りを自分の力で変えるのではなく自分を変えて視点を変えるという考え方です。自分はこの言葉がすごく印象に残りました。自分は変わらなければいけないと前々から思っていたのでこの言葉を信じて変われるように努力していきます。いろいろな事が得られた海外研修になりました。これらのことを日本でも活かして地域に貢献できるよう頑張ります。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>今回の研修を終えてこれからも英語能力の向上のために日々勉強していこうと思います。海外にいるところに比べたら英語を使う機会が少なくなるのでより密度のある勉強をしていきます。またインターンシップに行き自分はまだまだ勉強不足だと感じる事があったのでこれからよりいっそう勉強と研究に力を入れて、将来いいところに就職できるよう頑張っていきます。</p>	

## (記入にあたっての注意)

この報告書は今後の奨学金支給にあたっての参考となるものですので、詳細(複数頁可)に記載をお願いします。冊子として後に残るものなので記述の仕方にも注意して下さい。パソコンでの作成を原則とします。また、参加した研修がタイプA(地域貢献型)及びタイプBの場合は、地域貢献や地域活性化に資するグローバルな視点や能力を得たかどうか、成果を必ず記載してください。本報告書は、鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に掲載されます。

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・修士1年

氏名: ZHOU RONGXU

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先(国・地域) 滞在地	アメリカ合衆国・カリフォルニア州 サンディエゴ
研修期間	平成29年7月3日～平成29年9月22日
〔研修を通じて得た成果〕 私は本研修を通して非常に大きな成果を得ることができたと感じます。私は日本に留学していますが、今回の研修は又新しい経験でした。私のこの研修での目標は一つ目はアジアと欧米の考え方の違い、新しいものの考え方を得ることでした。二つ目はとにかく外国人に積極的に話しかけて、自分の英語力・コミュニケーション能力を試すことでした。三つ目は会社でのボランティア活動を通して海外の仕事の仕方を勉強することでした。実際にこの12週間の研修を通して、自分の中での目標を達することができたので、研修を通じて得た成果を紹介します。 研修の一番の成果は、英語に対する自信を持てたことです。今までの自分の英語能力は低くはありませんでしたが、しゃべるのが恥ずかしかったです。研修から数日後から自分が外国人だという意識が強くなり、特にホームステイ先のホストマザーと一緒に生活したことによって、段々自信を持って英語をしゃべるようになりました。私が一生懸命に英語で伝えていたら、彼女たちも一生懸命に聞いてくれて、話す時もゆっくり、簡単な言葉に言い変えて話してくれました。この人たちに出会って、英語を話せることで、日本だけではなく、他の国の人と会話ができる、通じあえる感動を得ました。 二つ目に6週間の企業研修を通じて、色々新しものを勉強しました。自分がボランティアした会社は建築会社です。会社で今まで勉強したことない知識を学びました。例えば、私は設計者の手伝いをして、模型を作りましたが、建物の窓、ドアや階段など、また中庭の岩などの細かい部分は自分の手で作るのではなく、3D模型を作ることを要求されました。そして、私は新しソフトを使って、3D模型の作り方を勉強させてもらって、最後に模型を完成した満足感は今まで感じたことがありません。その他に、新しものの考え方を得ることができました。今回の海外研修に行く前に、鹿児島市にある建築設備会社を見学して、会社員と色々交流しました。そして、それを今回の企業研修の経験と比べて、いろいろ違いが見つかりました。一番驚いたのはあまり残業しないことです。この会社は土日はもちろん、金曜日でも朝11時まで、1時間のミーティングをして、午後は休みになりました。また、午後の食事の1時間に時々ランチ学習という活動があって、これは他の材料会社や設備会社が自分たちの商品を紹介すると同時に、食事も提供するものです。スタッフたちはランチを食べながら、商品を理解して、勉強します。私も毎回参加しました。分からないこともありましたが、非常にいい活動だと思います。実際に鹿児島市の建築会社を見学した時、会社内の雰囲気は硬くて、ハードだと感じ、仕事をするとストレスがたまるのは当然だと思いました。しかし、こういう活動があったら、食事の時間でも少しリラックスができ、勉強もでき、少しストレスが削減できるのではないかと思います。	
〔研修後の抱負〕 以上は私の考え方ですが、まだ就職の経験がありませんが、企業研修で学んだことを将来の就職でも使えると思います。今回の海外研修によって、英語はもちろん、忘れないように今後も勉強し続ける必要があります。最後に、この研修で多くの人に支えられたことに対して非常に感謝します。今回の研修で得た成果を忘れずに今後にも生かしていきます。	

## (記入にあたっての注意)

この報告書は今後の奨学金支給にあたっての参考となるものですので、詳細(複数頁可)に記載をお願いします。冊子として後に残るものなので記述の仕方にも注意して下さい。パソコンでの作成を原則とします。また、参加した研修がタイプA(地域貢献型)及びタイプBの場合は、地域貢献や地域活性化に資するグローバルな視点や能力を得たかどうか、成果を必ず記載してください。本報告書は、鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に掲載されます。

# 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・修士1年

氏名: 野坂 直央

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先(国・地域) 滞在地	アメリカ合衆国・カリフォルニア州 サンディエゴ
研修期間	平成29年7月3日～平成29年9月22日
〔研修を通じて得た成果〕 本研修では、前半の6週間は語学学校に通い、後半の6週間は設計事務所でのインターンシップを行った。生活はそれぞれホームステイと、アパートメントでの一人暮らしと、3か月の中で様々な経験を積むことができた。 成果として、英語力はもちろん、国際色豊かな環境の中で視野が広がり、異文化を受け入れる柔軟性が身についたことが挙げられる。研修期間中には、数え切れないほどの出会いがあった。言葉や文化、価値観など、さまざまな”違い”を超えてのコミュニケーションは、それまで経験したことのない、今までの考え方が覆されてしまうようなものであった。これは、「価値観が変わった」や「視野が広がった」といった言葉で表され抽象的な表現になってしまう。しかしこの言葉の裏には様々なエピソードがある。 最も印象に残っている出会いの一つに私のホストファミリーとの出会いがある。私のホストファミリーには二人のホストファザーがいた。それは二人がゲイであることを意味する。初めてホストファミリーと会ったときにはとても驚いたのを覚えている。私にとってはLGBTの人と会うこと自体が初めてのことであった。私はどこかでLGBTの人たちに偏見を持っていたと思う。結果としては私が知識不足で、狭い視野しか持っていなかったことに気づかされた。アメリカは日本に比べLGBTの人たちが生活しやすい社会ができている。カリフォルニア州を含めた多くの州で同性婚が認められている。また、アメリカはもともと様々な人種や文化の人が集まる国であり、自分と”違う”人も受け入れる寛容な社会が出来ているのかもしれない。”違う”とは言ってもアメリカでのLGBTに対する考えにおいては、人としてただその人が好きであるということには変わりがない、という考えがあるのだと思う。これらの経験から、偏見や差別を持つことは間違っていないが、私たちと彼らの間にはなにも変わりはなく、広い視野と少しの知識で考え方が変わると学んだ。日本はまだ堅い考え方に縛られているところが多い。私は今回得たグローバルな視点で、幅広い角度から物事を発信する立場になれたらと思う。	
〔研修後の抱負〕 私は設計事務所でのインターンシップを行った。大学院では建築学を専攻しており、将来は設計の仕事をするのが目標である。今まで学んできたことがどこまで通用するか知ることは一つの挑戦であった。結果としては自分はまだまだだと思った。しかし同時に、将来への可能性のようなものが見つかった。建築は人の生活と密に関係するものである。その建物を利用する人のことを考えるため様々な視点からの考察が必要である。今回の研修を通し視野が広がったことは、今後研究室で行うプロジェクトですぐに活かすことができると考えている。実際に進行中のプロジェクトは地域住民と深く関係するものである。自分のアイデアで少しでも地域に貢献できたらと思う。また、今回の研修で学んだことを将来自分が携わることになるであろう建築でも活かしていきたい。	

(記入にあたっての注意)

この報告書は今後の奨学金支給にあたっての参考となるものですので、詳細(複数頁可)に記載をお願いします。冊子として後に残るものなので記述の仕方にも注意して下さい。パソコンでの作成を原則とします。また、参加した研修がタイプA(地域貢献型)及びタイプBの場合は、地域貢献や地域活性化に資するグローバルな視点や能力を得たかどうか、成果を必ず記載してください。本報告書は、鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に掲載されます。

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・修士1年

氏名: 折尾 彩

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先(国・地域) 滞在地	アメリカ合衆国・カリフォルニア州 サンディエゴ・サンノゼ
研修期間	平成29年7月3日～平成29年9月22日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>今回の研修に参加する前は人前で話すことが恥ずかしく、うまく話すことができなかった。また、自分の英語が相手に伝わらずに、相手に理解してもらえないのではないかと不安になっていた。しかし、事前研修や自分で英語を学習していくうちに自信が付き、早く英語を話して生活したいと思うようになった。実際に、アメリカで生活してみると心配していたほど大きな問題はなかった。また、事前に発音の練習をしていたので、きちんと聞き取ってもらうことができ、語学学校やインターン先での友達や上司の方と話をしていくうちに英語での会話や対応をきちんと行うことができるようになった。</p> <p>また、3か月間アメリカで生活をしていく間にたくさんの刺激を受けることができた。アメリカの人たちは愛想がよく、お互いによく会話をしていた。日常生活において日頃からコミュニケーションをとることにより、仕事でもすぐにディスカッションができ、気兼ねなくコミュニケーションをとることができる環境を自身の研究室や実生活で役立てるように参考にしたい。また、それぞれの人がお互いに尊敬をしていると思った。そのことにより、仕事において上下関係や役職はあるが、自分の意見をしっかりもち、きちんと全員に自分の意志をつたえ、また、お互いに納得いくまで話をおこなうことで上手く物事が進んでいた。日本ではあまり実感できないことであったので、就職をして、社会に出たら応用できることだと思う。</p> <p>アメリカならではのポジティブな考えや文化を実際に感じることで、自分自身の価値観を変えることができた。例えば、インターン先での生活でうまくやっていたのか不安になってしまった時期があった。しかし、与えられた環境に適応しなければいけないと思い、試行錯誤しながら、一生懸命インターン先の人とコミュニケーションをとっていくうちにとても充実した生活を送ることができた。この適応能力はこれから先、新しい環境におかれた場合や何か困難に当たってしまった時に応用していきたい。</p> <p>今回の研修では得るものが多く、充実した生活を送ることができた。また機会があれば、いろいろな国の様々な文化や習慣、価値観を実際に訪れて学んでいきたい。</p>	
<p>〔研修後の抱負〕</p> <p>研修が終わったあとであっても、英語の勉強をしていくことで語学力の向上に努めていきたいと思う。また、今回学んだことを通して、与えられた環境に適応する能力やコミュニケーション能力を学生生活や卒業後の仕事にぜひ活かしていきたいと考えている。そして、自分の可能性を広げるためにも、様々なことにチャレンジしていきたいと考えている。</p> <p>また、アメリカだけではなく、様々な国の文化や考えを知りたいと思ったので、今まで以上に精進して学んでいき、機会があれば再度留学をしたいと思う。</p>	

(記入にあたっての注意)

この報告書は今後の奨学金支給にあたっての参考となるものですので、詳細(複数頁可)に記載をお願いします。冊子として後に残るものなので記述の仕方にも注意して下さい。パソコンでの作成を原則とします。また、参加した研修がタイプA(地域貢献型)及びタイプBの場合は、地域貢献や地域活性化に資するグローバルな視点や能力を得たかどうか、成果を必ず記載してください。本報告書は、鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に掲載されます。

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・修士1年

氏名: 恩田 圭二郎

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先(国・地域) 滞在地	アメリカ合衆国・カリフォルニア州 サンディエゴ・サンノゼ
研修期間	平成29年7月3日～平成29年9月22日
〔研修を通じて得た成果〕	
<p>今回の研修を通して、自分の成長点は多数あると思う。もちろんその多くは語学力、すなわち英語力に関するものであるが、それだけではなく、アメリカで生活してみて、彼らの価値観や生活そのものを肌で触れてみて、多くの学ぶべき点があったように思う。まず第一に英語に関する点だが、個人的には説明しづらい。というのも、これに関しては、TOEICなどの目に見える能力ではなく、実際に経験してみて身に着けたものだと考えている。例えば、初めのうち、すなわち今回のプログラムに参加する前は、英語を使う(主に英語を話す)ことすら難しかったが、プログラムを終えてみて感じることは、英語を使う(話す)ことに特に大きな抵抗を感じないように思う。しかし、これが目に見えてTOEIC等のスコアに現れるかというところではないと思われる。つまり、実際に海外の人と英語を通じて会話したことで、英語に対する恐怖心がなくなり、それまで持っていた英語のスキルと(十分とはいえないが)口が繋がったように感じる。この点に関していえば、今回のプログラムに参加していなければおそらく経験することはなかったであろうことなので、研修を通して得た、大きな成果だと思う。そして第二に、生活、もしくはインターンシップを経験して得られたと思われることだが、多数あるうちの中で最も成果として挙げられるのが、評価の方法が日本とは異なるという点だと思う。この点において、日本は学ぶべき点があるのではないかと思うし、また、今後の自分に影響を与えるような点でもありと思われる。ただその前に言っておきたいのは、すべて学ぶべき点があるのかというところではないというのが私の意見で、すなわち、日本は日本でいい点があると気づく必要がある。評価方法の話に戻るが、シリコンバレーでインターンシップをしてみて、世界の半導体関係のトップ企業が密集するあの地では、とにかくやってみるといのがどの企業も持っているコンセプトのように思う。すなわち、失敗するよりも、他の企業や人物が先を越すかもしれないという中で、何か新しいアイデアをとにかく試してみるというスタンスである。そのせいか、若い世代にも、あるいは若い世代のほうが、自分を売り出す機会が多く、ベンチャー企業などの進化が著しい。その点日本の企業ではグローバル化を叫びながらも、失敗を良しとせず、経験にのみ身を委ねているように思う(もちろんそうでない企業もあるとは思いますが)。ゆえに、一度ブレイクスルーが起きてしまうと、それに対応できずに一歩、もしくは二歩、他社や他国と比べて遅れてしまうという状況に陥ってしまうと考えられる。この点において、日本は多少なりとも学ぶべき姿勢があるのではないかと思う。また、今では都会、おおよそ東京の企業だけがグローバル化に踏み切っているわけではなく、地方の企業、もちろん鹿児島を含む企業が世界を渡り歩かなければならない状況にある。大手企業の下請けであっても上がグローバル化に走っているのであれば下請けももちろんそれに対応しなければならぬ。そうした点において他国が変化してから日本が変化してはいけないのと同様に、地方企業もまた、一歩先に行く必要があるのではないかと考える。すなわち、地方企業もまた、新しいアイデアを生み出し、それをトライしてみる必要があるのではないかとということである。以上の二点が、今回このプログラムに参加してみて得られた大きな成果だと考える。</p>	
〔研修後の抱負〕	
<p>今回の研修を通して、自分が多少なりとも大きくなれたと感じることができ、満足することができた。今後、今回学んだことを生かす時が出てくると思うので、このグローバル社会においてその中心となれるようなグローバル人材へと、これからも自分を高めていきたいと思う。</p>	

## (記入にあたっての注意)

この報告書は今後の奨学金支給にあたっての参考となるものですので、詳細(複数頁可)に記載をお願いします。冊子として後に残るものなので記述の仕方にも注意して下さい。パソコンでの作成を原則とします。また、参加した研修がタイプA(地域貢献型)及びタイプBの場合は、地域貢献や地域活性化に資するグローバルな視点や能力を得たかどうか、成果を必ず記載してください。本報告書は、鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に掲載されます。

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科 修士1年

氏名: 溝口 晃平

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先(国・地域) 滞在地	アメリカ合衆国・カリフォルニア州 サンディエゴ
研修期間	平成29年7月3日～平成29年9月22日

## 〔研修を通じて得た成果〕

私はサンディエゴでの海外研修を通じて、グローバルな視点を得ることができたと感じています。具体的には語学学校では日本とアメリカでの英語教育の違いを感じることができました。アメリカの英語教育には少人数制、コミュニケーション重視の授業などの日本が見習わないといけないと思う点が見つかることができました。インターンシップでは事前に調査した鹿児島科学館の現状や課題をアメリカに持っていき、アメリカの科学博物館ではどのようなことが行われているのか調査や比較を行い、私なりに地域に貢献できる可能性のある答えや情報を見つけることができました。私はその時学んだことをまとめ、共有することで地域貢献していきます。私はこれらのようなグローバルな視点を得ることができました。

以下には語学学校やインターンシップを体験して感じたことや学んだことを記します。

## 語学学校

私はサンディエゴ州立大学付属の語学学校で一か月半授業を受けました。語学学校にはもちろん日本人も多かったのですが中国、韓国、台湾などのアジア圏をはじめ、サウジアラビア、イタリアなど色々な国からの学生がいました。1クラス16人の少人数性を採用しており日本とはまた違い、先生と生徒一人ひとりのつながりの高い授業を受けることができました。語学学校には文法、オーラルコミュニケーション、ライティング、リーディングなど複数の講義が行われました。すべての授業で共通する点は授業中では英語のみを使用し会話することです。どの授業でも積極的に意見交換、質問、発現できる環境で日本も取り入れるべきものだと感じました。日本では英語で会話して間違えたら恥ずかしいなど思いなかなか英語を使うことにためらいを持っていた私が、積極的に会話できる環境によりその様な考えを捨て去ることができました。また今まで言語の違いにより会話することができなかった英語圏外の国の生徒とも英語という共通の言語を使うことで意思疎通できたことに喜びを感じました。このように語学学校では日本の教育との違いや、他の国々の人々と交流することにより様々な考え方を学ぶことができました。

## インターンシップ

私は地域貢献活動としてインターンシップでお世話になるアメリカの科学博物館と鹿児島科学館を調査、比較することで鹿児島科学館や教育に貢献できないかと考えました。留学前事前に鹿児島市立科学館に伺い、所長と直々にお話する機会を頂きました。ここで伺った、鹿児島科学館が持つ現状や課題をもとにサンディエゴ科学博物館では実際にどのような経営が行われているのか実際に私の目で見て確かめる、また詳しい方にインタビューすることができました。基本的な経営方針はどちらも非営利組織ということでは似ていました。しかし経営や運営では大きく異なる点がありました。アメリカ科学館では非正規雇用者だけでなくボランティアワーカーも多数いました。ボランティアを採用することは地域貢献かつ人員の確保になっていました。ボランティアの育成体制も整っていました。またアメリカ科学館は展示物を自社で作成できる工場や大型プリンターなどの設備や技術者を保持していました。外注することで生じるコストや時間のカット、また頻りに展示物を変更できる点が鹿児島科学館と異なりました。日本の科学館ではできないお酒を提供しDJを呼ぶなどの大人向けのプログラムも用意して、課題の一つである大人の集客も実現していました。このように日本では常識破りの運営をアメリカでは行っていました。これらのことは私にとってほんとに衝撃的でした。

## 〔研修後の抱負〕

この海外研修で得られた経験を今後の学業や就職活動に活かしていくだけではなく、留学前に立てていた目標であるTOEICで650点以上得点することを実現します。また今回の語学研修で私が前から抱いていた英語への苦手意識も克服でき、ますます英語学習に力を入れていこうと考えています。大学院在学中の目標はTOEICでは730点以上を得点する、また通訳などのボランティアなどにも積極的に参加し地域に貢献することです。10年後には就職先での海外赴任を目指します。上記のことを実現できるよう今回の海外研修での経験を活かしながら語学に励みます。

## (記入にあたっての注意)

この報告書は今後の奨学金支給にあたっての参考となるものですので、詳細(複数頁可)に記載をお願いします。冊子として後に残るものなので記述の仕方にも注意して下さい。パソコンでの作成を原則とします。また、参加した研修がタイプA(地域貢献型)及びタイプBの場合は、地域貢献や地域活性化に資するグローバルな視点や能力を得たかどうか、成果を必ず記載してください。本報告書は、鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に掲載されます。

## 学生海外研修報告書

鹿児島大学長 殿

研修参加者

所属(学部(研究科)・学年): 理工学研究科・修士1年

氏名: 宮崎 優太

授業科目名	理工系国際コミュニケーション海外研修
研修先(国・地域) 滞在地	アメリカ合衆国・ニューヨーク州 ニューヨーク
研修期間	平成29年7月10日～平成29年9月29日
<p>〔研修を通じて得た成果〕</p> <p>研修を通じて得た成果は主に以下の4つです。</p> <p>第一に英語力が向上しました。TOEICテストは帰国直後ということでまだ受験できていませんが、体感的には留学前より英語による会話がスムーズとなったため英語力が向上したように感じています。滞在した寮は大体数がドイツ人ということもあり、日本人どころかアジア人自体珍しい状況でした。毎日、日本語が通じない友人や寮のスタッフと会話することで日常会話を英語で行うことができるようになりました。</p> <p>第二に工学的技術が習得できました。具体的には設計ソフトによる機械の製図や、3Dプリンターによる部品の作製が可能になりました。これらの技術は工業的に多くの業界で活かせる技術だと考えております。研究室では熱輸送装置に関する研究を行いましたが、まずCADで装置部品を設計するところからスタートしました。自分の専攻ではCADを使う機会がなかったのですが、興味があったため自主的に本を購入して練習したことがありました。その時の知識が役に立ったのですが、機械工学を専門に勉強してきた研究員や学生からさらに深い技術を教えていただくことができました。</p> <p>第三にコンピュータによる解析手法を学びました。習得したとまでは言えませんが、プログラミングによる数値解析について概要を学び簡単な計算・作図をすることができるようになりました。研究室だけでなく寮の友達からもプログラミングを教えてもらいましたが、自分が何行もかけて組んだコードをわずか数行のコードで置き換えることができる友人がおり、衝撃を受けました。</p> <p>第四に知見が広がりました。自分が三か月間留学した施設では国際連合で働いている方やコロンビア大学・ニューヨーク大学のポストクや博士課程の学生、医師、俳優、会計士といった人々と共同生活を送りました。夕食では円卓を囲んで談笑し、食後は部屋や図書館でお酒を共にしました。英語力や教養不足で上手くコミュニケーションを取ることができなかった人もいましたが、一生付き合える友人を数人作ることができました。彼らとの何気ない会話の中で日々自分の知見が広がっていくのを感じました。またニューヨークは国連やワールドトレードセンターなど世界でも重要な機関やブロードウェイのようなエンターテイメントがあり、街を散策するだけで刺激を受けました。</p> <p>〔地域貢献や地域活性化に資するグローバルな視点や能力を得たかどうかに関する成果〕</p> <p>私は現在、九州地区内の企業に就職する予定です。将来就職先で海外で駐在員として働く場合や、海外出張、海外との取引など、様々な場面で今回の留学で得た語学力や友人、海外文化への理解等の経験が役に立ちます。これは最終的には地域貢献に繋がると考えています。</p> <p>〔研修後の抱負〕</p> <p>特に英語を継続して学びたいと考えています。なぜなら研修中に得た成果の中で最も劣化が早いと考えているからです。ニューヨークで得た友人とインターネットを通じてテレビ通話できることもあり、楽しんで社会人に向けた英語の準備を整えようと思います。また、自分の日本での研究の発表を楽しみにしてくれる人達ができるので、さらに研究に励みます。</p>	

(記入にあたっての注

この報告書は今後の奨学金支給にあたっての参考となるものですので、詳細(複数頁可)に記載をお願いします。

冊子として後に残るものなので記述の仕方にも注意して下さい。パソコンでの作成を原則とします。また、参加した研修がタイプA(地域貢献型)及びタイプBの場合は、地域貢献や地域活性化に資するグローバルな視点や能力を得たかどうか、成果を必ず記載してください。本報告書は、鹿大「進取の精神」支援基金HP及び報告書等に掲載されます。